

BID 『図書館が良い 21 の理由』

伊藤 白

本稿は公益団体「ドイツの図書館と情報」(BID : Bibliothek und Information Deutschland e.V.) が作成したドイツの図書館振興パンフレット「図書館が良い 21 の理由」(21 gute Gründe für gute Bibliotheken)¹ の全訳である。

BID は、各種図書館関連団体および情報学関連団体の上部機関で、各種図書館・情報関連機関の利害を取りまとめ、政府へのロビー活動を行うなど、政治団体的な機能を果たしている。2002 年から 2005 年にかけて Bibliothek 2007 というプロジェクトを実施し、最終報告書として図書館政策のあり方を提言した文書を公表した。パンフレットは、この提言を具体化することを目的に発足した、Bibliothek 2007 の後続プロジェクト Bibliothek 2012 の中核をなすものである。2009 年 1 月にはデザインを施した冊子体パンフレットとして、付録の「役立つ図書館のためのパフォーマンス・品質指標」、「ドイツの学術図書館のためのスタンダード」、「図書館法案」及び政治家向けの概略版とともに出版される予定である。本文はジャーナリスト Anne Buhrfeind、デザインは Victor Ströver による。翻訳は 9 月に公表された稿に拠ったが、これは細かい訂正を除き、ほぼ完成版とのことである。なお、Bibliothek 2012 をはじめとするドイツの図書館情勢については別の機会に報告する予定であるため、詳細はそちらを参照されたい。²

翻訳にあたっては、BID 職員の Helmut Rösner 氏に著作権処理の労を取っていただいた。この場を借りてお礼を申し上げる。



図 2009 年 1 月出版予定のパンフレットより抜粋

¹ http://www.bideutschland.de/download/file/2_21%20GUTE%20GRUENDE_endg_4-9-08.pdf [accessed 2008-09-25]

² 国立国会図書館『カレントアウェアネス』No.298 掲載予定。

図書館？ そのとおり。こんなにもたくさんの人が訪れる場所なのです。

でも、そもそもなぜ図書館なのでしょう？ だってインターネットがあるし、必要な情報はグーグルでまとめて検索できるのだから。子どもたちには本を買ってあげればいいし、それにいずれにしても、子どもたちはパソコンで遊ぶのが一番好きなのだから。

そのとおり。その理由だけで十分、図書館は必要なのです。しかも、ほかにもたくさん、理由があるのです。ご説明しましょう。

図書館が良い21 の理由

1. だって図書館は私たちをつなぐから

教養市民は劇場に、小学生は小学校に、サッカー選手は競技場に行きます。図書館に行くのはみんなです。年寄も若者も、女教養も売り子も、高所得者も失業保険受給者も、イスラム教徒もキリスト教徒も。図書館に行く人は、社会の一員と感ずることが出来ます。そこに来るのは、好奇心旺盛で、チャンスをもノにしようとしている人たちなのです。「社会の関心の的」になっている公共図書館であろうと、大学の専門図書館であろうと。

図書館は、社会の格差が広がらないよう、手助けします。学校や市民講座では、誰もが英語を、テキスト処理を、生物化学を学びます。でもいつか、学校を卒業しなければならず、スペイン語のコースも過ぎ去ってしまうのです。それから？ 情報を持った人、成功した人だけが、前進し続けるのでしょうか？ いいえ、そんなことはありません。図書館が知識を、インターネットへのアクセスを、メディア・リテラシーをすべての人に提供するかぎりには。本当に、求めるすべての人になります。刑務所の中でも、病床にあっても。お金を払う必要もなければ、審査を受ける必要もなく。

約 11,500 の図書館がドイツにはあります。毎日 670,000 人の人が図書館を訪れています。

2. すべての子どもたちに本を読んでもらうために

図書館は恐ろしいところです。ご存知でしょう。図書館にはじゃがいもマーフィー¹ がいいます。彼女はつららのような歯をしていて、腕はロボットのように。スタンプをコルト式自動拳銃のように腰からぶら下げています。子どもたちがお行儀良くしていないときには、空気圧式銃で子供たちめがけてジャガイモを撃ちつばなすという噂です。実のところは、つまり、彼女はただかて抜け目のない図書館員で、筋金入りの本嫌いにも、それどころか男の子たちにも、本の楽しみを教えることができるのです。彼女はまさに、正真正銘の図書館員です。図書館員はそんなことができるし、そんなことを学んできたのです。

というのも、読書は小学校で習うこと、つまりつづりを覚えることや単語を解釈すること、文を認識することだけを指すのではないのです。ちゃんと読むということは、理解すること、分かるということ、創造的に考え直すこと、本を愛することを意味するのです。多くの子どもたちはもはや家ではそんなことを学べません。なぜなら、子どもたちと一緒にページをめくり、声を出して絵本を読んでくれる人がもはやいないからです。朗読（Vorlesen）をするということは、模範（Vorbild）になるということです。子供たちは、家では本を読んでいる人を見ることがまったくないので。いまは読書中だから邪魔をしてはいけないけれど、後で、本や新聞からどんな冒険的な事柄を知ったか感激して話してくれる、そんな人がぜんぜんいないのです。けれどもほら、どんな小さな図書館にだって、まさにそんな人たちがいるのです。

3. だって図書館には天蓋付きのベッドがあるから

少なくとも、オスカーの市立図書館には。そこでは彼はベッドにもぐりこんで、本を読んでもらうことができます。年齢からするともうそんなことは卒業しているころなのだとしても。オスカーは元気な8歳の男の子で、よくここに来ます。ここでいろいろな発見があります。友達から教えてくれたコンピューターゲームも、彼の好きなコミックスの新刊も、そして最近彼は本当にその漫画家とも知り合いになりました。彼はまさにここで漫画を描いていたのです！

多くの町で、実際に小学生はみな町の図書館か教会の図書館に行きます。たとえばヒルデン市では、市立図書館は町の17の小学校と協定契約を結んでおり、子どもたちは学校かばんの中に図書館カードを入れてもらうのです。12年後、子どもたちは図書館のワークショップに参加し、学術的な文献をどのように目録に書き込むかを学びます。ハイデルベルクでは14歳以上の子どもたちが「読書大使」として町の図書館に参加します。本と、人と、メディアとのたくさんの出

会を経験します。ティーンエイジャーたちは図書館ブログで、図書館で最近読んだ小説やビデオやウェブサイトを感激して紹介します。

4. 図書館には移民・移住者のための本がたくさんあります

私たちはどこから来たのでしょうか？ そしてどこへ行くのでしょうか？ そんな質問は不安にさせます。でも図書館にはあらゆる答えがあります。アイシェもここでトルコ語の本やDVD を借りることができます。彼女が今好きなムハビトの話題のCD もあります。彼女がもう少しドイツ語を、あるいはトルコ語を学ぼうと思ったら、2 言語のメディアもあります。それどころか彼女はここでクラスのフィリップに出会うかもしれません・・・。

アイシェのお父さんも一度ここへ来ました。国籍取得の前に調べにきたのです。新しい国籍が何を意味するのか、来年初めて州議会選挙の投票をするとき、争点になるのは何なのか。彼は、いまなお彼の故郷である国トルコについてたくさんの資料があるのを見て、喜びました。それも両方の言語の資料があるのです。図書館では、移民の統合に真剣です。ここでは「統合」はスローガンではありません。現実です。

5. より速い、より良い学習を図書館で

パッサウの2人の学生が、お金を稼ぐいい方法を思いつきました。大学図書館の閲覧室の慢性的に足りない座席を予約して「賃貸」するのです！ 私用座席サービスのためのマーケティング構想が練られ、チラシも印刷されました。そして既に問い合わせが殺到しています。とはいえ、これはただの冗談で、大学図書館の状況に目を向けさせるために行われたものです。ドイツの大学図書館は、まったく負担過剰です。学生や研究者の90パーセントが大学図書館を利用しています。200万人のドイツの大学の学生が、効果的に学び、仕事をするために毎日図書館を必要としているのです。図書館なしに研究も教育も考えられません。インターネットもこの状況を変えはしませんでした。それどころか、神経学者は図書館ライセンスのおかげで世界中の同僚の実験結果をより早くディスプレイ上に見ることができるようになりました。経営学部の学生は図書館で専門のデータベースのためのオンラインチュートリアルを見つけます。それだけではありません。他の図書館から届いた、課題のための資料も、そして彼の買った株の最新価格をも見つけるのです。昼間は1エの瞳のサイズを測らなければならない博士課程の学生の彼女も、夜は大学図書館で、論文データや統合カタログ、コメント付きのリンク集を彼女の研究目録に書き込みま

す。もちろん数々の冊子体、電子媒体の本が大学図書館に所蔵されています。人文や社会科学の研究者にとってだけでなく、本は研究においては今なお重要な同伴者なのです。

6. ご自由にどうぞ！ すべての人のための知識とは、デモクラシーなのです

図書館の知識、本や新聞、DVDやCDの蔵書は、みんなのもです。家でインターネットにアクセスできない人は、食べていくための仕事探しに、夜のデート相手を探すために、また学位論文の参考文献のために、図書館のインターネットを使うことができます。誰でも来て、誰でも自由に使い、すべての情報にアクセスすることができるのです。これはまさに日常における情報の自由であり、意見の多様性です。これはデモクラシーに他なりません。

図書館は知識へのアクセスを民主化します。図書館は、自由で、統合され、啓蒙された社会の拠りどころなのです。

7. 図書館は万能です

図書館は、国中の人々に必要とされるすべての情報を提供することができます。大きな大学図書館や市立図書館、地域の図書館に移動図書館。これらの図書館がすべての本を持っているわけではありません。当然です。でも、これらの図書館は、どんな本でも調達するために、互いに連携し、協力しているのです。図書館はジェネラリストです。百貨店のように。スーパーマーケットのように。

8. 図書館はスペシャリストです

でも、誰がいったい骨董品を百貨店で探すでしょうか？ あなたが中性子に興味を持っているとしましょう。あなたは信頼に満ちてグッティンゲンにあるマックス・プランク生物物理化学研究所のオットー・ハーン図書館に向かうでしょう。もしヘンデルのオペラの「アボロとダフネ」の楽譜を見て、このバロック作家がどのように書き込んだかを知りたいければ、あなたはハレにあるヘンデルハウスの図書館に赴かなければなりません。ケルンの教区図書館や大聖堂図書館は、たくさんの収集品のほかに、トマス・アクィナスの手稿を所蔵しています。はらはらするものを提供してくれるのは、ブレーメンの市立図書館にあるドイツ推理小説図書館です。それに対して、

氷のように冷たいものを提供するの、ブレーマーハーフェンにあるアルフレート・ヴェーゲナー極・海洋研究所の図書館です。歴史的な旅行文学ならオイティンの州立図書館が専門です。ワイマールの「アンナ・アマーリア」は古典主義の図書館で、ゲーテ自身が何十年もかけて蔵書の構築に心を砕いたところです。ベルリンには「テロの地勢図」基金があり、ナチスに関するさまざまなテーマの本が12,000冊集められています。特殊な図書館は国中にあるのです。特殊な資料を持つ図書館、特別に美しい図書館、特別に古い図書館。

9. 図書館は商業的ではありません

いまなお、知は力です。でも情報は商品でもあり、お金がかかるものです。もしどこかで特別なデータや特殊な出版物を探しているなら、あなたはきっと、それを売ろうとする人に出会うでしょう。あるいは、はじめは何も払わなくてもいいかもしれません。でもおそらく、何らかのリンクの割り当てや、不透明なアルゴリズムが、あなたがその文書を手にするかどうか、あるいはどのような価格で手にするかを決めてしまうのです。図書館は公共の資金によって運営されています。したがってあなたはそこで、最新の情報を、商業的な利害なしに入手できるのです。お金をもうけようとするために満たされているのではない、知の倉庫から。それで社会を豊かにするために満タンの倉庫から。

10. そうではなく、図書館は経済的です

商業的ではなく、経済的です。図書館は経営学的手法を導入しています。そこで働いている人は、計算することに、マーケティング、品質管理、ベンチマーキングといった概念に昔から慣れ親しんでいます。図書館員は予算を効果的に使います。パフォーマンスを少しでも削りたくないからです。図書館員は「見えないところで」節約することに関しては、機動力利くのです。けれどもそれでも、コストが増え、でも予算が増えない現状では、お金は決して十分ではありません。これは、創造的なかわりが必要状況です。お金との、利用者の関心とのかかわり、他の図書館や文化施設との相互利用や協力の可能性への働き掛け。

この財政難にもかかわらず、図書館はここ数年、蔵書やサービスの範囲を定期的に最適化してきました。新しい出版物、本や電子図書、オーディオブックや音楽、映画が本棚に並ぶ時期は、どんどん早くなっています。データベース検索のための投資、全文検索、オンライン予約、電子媒体、それに常に洗練されるインターネットのポータルサイトによって仕事はどんどん快適に、効

率的になってきています。「オープンアクセス」の原理は仕事を安価にします。図書館員は、公共の資金によって行われた研究を無料で使うことができるのはどこか、見つけ出します。こんなサービスをしているのは、図書館だけです。

図書館への投資は人間の頭脳への投資です。しかも、当てにできる投資です。多くの国際的な研究が証明するところによれば、投資は5倍になって帰ってきているのです。

11. 図書館には素晴らしい雰囲気があります

本棚やボロボロになったオウィディウスの本にギルプ² が巣を作っていた、子供のころの薄暗い学校図書館は忘れてください。今日、美しい神殿のような図書館もあります。例えば、コッブスの大学図書館やミュンスターの市立図書館。ゆったりとした明るい建物で、モダンにしつらえた部屋があり、そこではあらゆる技術が洗練されていて、思考の流れを心地よく押し進める雰囲気があるのです。学術図書館も公共図書館も、もうとっくに荒涼とした貸本ステーションではなくなって、そこは、完璧なマルチメディア装置とグループ学習用の部屋、それに静かな作業場を備えた、本物の学び場なのです。図書館にはコミュニケーション活発な、生きいきとした雰囲気があり、なおかつ静けさに満たされています。それでは、誰かが騒ぐと思わず「シーッ!」としていた、あの古き良き図書館は？ はい、まだあります。例えばライプツィヒにあるドイツ国立図書館や「アンナ・アマーリア」、それにたくさんの伝統的な大学図書館では、まるでリヒテンベルクの時代のように勉強が行われています。でも、今日では暖房があり、無線LANがあります。リヒテンベルクが彼の通ったゲッティンゲンの大学図書館をもう一度訪れるとしたら、涙があふれてしまうでしょう。すべてが新しいのです……!

12. 図書館で何かが始まります

ちょっと中を見てみましょう。ハーテンの市立図書館では、教育学の教授が子供たちの反抗期について両親と話をしています。ヴュルテンベルクの州立図書館ではヘルダーリンに関する展示会が行われています。ローゼンハイムではトーマス・マンのお気に入りの孫³ が、別の意味で容易ではなかった子供時代について講演をしています。人口6,000人のアルテントレプトウでは、ギンター・ハートルが朗読をします。フォークトラント郡アウエルバッハでは風刺寸劇が、バート・アイブリングの人形劇場では4歳以上の子どものためにゲーテの『魔法使いの弟子』が上演されます。バート・ヴィンスハイムでは図書館の中で殺人事件です。つまり、推理小説の

朗読会です。ギングストではメルヘンの時間が、オルデンブルクでは絵本映画が、そしてハンブルクでは完全に離陸してしまいました、つまり「空飛ぶ読書活動」で、俳優が絵本を生き生きと表現するのです。これで終わりではないのです。図書館でパスタを作ることができます。ポッドキャストを自分で作ったり、ポエトリー・スラムで2位を獲得したりできるのです。図書館では何かが起こっています。それはコミュニケーションです。文化です。まさに小さい町でこそ、文化が育まれるのは図書館の中なのです。

13. 図書館で一番良いもの、それは図書館員！

またもや納税申告です。ヴォルフガング・ライマンはこれが全く好きではありません。二重になってしまった家計の運営を今も主張できるのか否か。そういうことは常に変わっていくし、助けがなければ学者にだって常に明瞭とは限らないのです。素晴らしいことに、図書館員はこのテーマに関してどこに助言者がいて、どんなコンピュータープログラムがあるのか、知っています。一番良いプログラムも知っています。ただ、それはそこになく、誰かほかの人が借りてしまっていました。でも問題ありません。図書館員は、ヴォルフガング・ライマンのために入手しておいてくれます。彼が次に町に来たときには、彼はそれを持って帰ることができるでしょう。

図書館員は助言し、入手し、組織化し、検索し、推測し、仲介します。彼らの仕事はとても変わってきました。技術と利用者の要望が図書館を改革したのです。いまや図書館員はデジタルの世界を構築し、ますます見通しがきかなくなっている情報の多様な可能性の中、利用者を導き案内するのです。なんてカッコイイ仕事でしょう！ そう、彼女たちはまさにカッコよく本の推薦に苦心し、メディア教育のプログラムを開発し文化イベントを企画するのです。

14. www.toshokan.de/kiite.ne

もちろん、探しているものによります。『パベルの図書館』で想像上の本を幻想的な構造に分類した、作家（でかつ図書館員）のホルヘ・ルイス・ボルヘスの略歴を知るのであれば、ウィキペディアが手取り早く助けてくれるでしょう。けれどもボルヘスの作品をもっとよく知りたと思ったら、あるいは膨大なデータを検索するつもりであるならば、図書館に来たほうがいいのです。ひょっとするとそのために地下鉄やバスを使う必要すらないのです。そうではなくて、家で電子版のカatalogで探すことができます。あるいはバスの中で検索することもできます。す・・・。

グーグルでいいって？ ちょっと込み入ったことを調べている人なら、知っています。サーチエンジンは巨大な底引き網のように機能し、何でも、可能なものも、不可能なものも持ってきてしまいます。でも図書館でなら、正確な、あつという間の調査が成功するのです。

15. 図書館？ いいと思うわ

いずれにせよ、本を読む人は図書館をそう思っています。どうしてわかるのでしょうか？ 第1に、なぜなら、彼らが図書館を使うからです。そして図書館は利用者の数を数えているからです。第2に、定期的にアンケートを行っているからです。その結果、75パーセント以上のユーザーが、とりわけ図書館の行ってくれる助言を「良い」あるいは「非常に良い」と言っているのです。ユーザーは良い助言を得られたと感じ、15年前と比べて使いやすくなったと感じ、公共図書館の雰囲気が好きだと答えているのです。全ドイツ人の3分の1の人は図書館を使っています。これはたくさんです。劇場やサッカー競技場に行く人はもっと少ないのです……。

16. 図書館には本があります、印刷された本も

若い日本人の女の子は、ハルキ・ムラカミの最新のベストセラーを、携帯でクリックして読んでいます。でもちゃんと本を読むなら。多くの人々はまだこれからも、もっとも快適な方法で読みたいと思っています、つまり、印刷された本で。古典の選集がなくなることはないでしょう。利用者はみな図書館で本を利用したいと思うでしょう、パソコンを自分で持ってきているときですら。彼らはどんな目的に対してもまさに適切な形式を求めるのです。ちょっとした参考書や調べもののためには電子図書を、楽しみのためにはオーディオブックを、集中して勉強をするときやのんびりと本を読むときには印刷された本を。私たちは、テレビを見てインターネットができる現在も、もちろんまだラジオを聴くし、映画館にも行きます。メールができるにもかかわらず、電話もします。私たちは本を必要としているのです。そして私たちは図書館を必要としています。電子図書館をも必要としています。情報と文献への自由な入口を必要としているのです。

17. 図書館には驚きがあります

シュレスヴィヒ・ホルシュタインの大臣の演説原稿ライターは、上司がリューベックを訪れるにあたって、気の利いた締めめのセンテンスを思いつかずいました。テーマは、業績。それもびしょと締まるものがほしいのです。リューベック、といって思い浮かぶのは、偉大な市民作家、こ

の町の息子トーマス・マンの作品をパラパラとめくってみる事です。そしてトーマス・マン。そういってすぐ思いつくのは、東京⁴を探すことです。え？ なんですか？ いえ、本当なのです。東京の大学図書館がトーマス・マンの作品の全文検索を提供しているのです。検索の結果、いくつかうまい箇所を見つけました。著作権の問題がありますから、見たければ原稿をご自分で。原稿ライターの仕事所にはトーマス・マンの13巻本の全集はありませんが、彼は知っています。州議会の図書館がこんな場合助けてくれるのです。これまでも図書館は彼のために複雑な情報を入手してくれていました。紹介の日本のウェブサイトのアドレスはこちら：

<http://corpus.kyushu-u.ac.jp/>

18. 図書館には体系があります

当然のことでしょう。図書館はよく組織立てられています。そうでなければ何も再び見つけたことはできないでしょうから。でも図書館は体系を作ってもいるのです。国中に広がる情報網を。市立図書館は、町のあちこちに支店を持つ網のようなもので、支店を援助することに責任があります。小さな図書館は存在できなかったでしょうし、本当の意味では何も活動できなかったでしょう、これらがネットワークを形成していなかったら、地域のより大きな図書館と結びついていなかったら、相互利用につながっていなかったら、州の専門機関や教会図書館団体に支えられていなかったら。

公共図書館や大学図書館は協働しています。ともに活動することで、要求に応え、みなに開かれている情報をみなに利用させることができるのです。学校図書館は、大学図書館自身がつながれている体系の一部分で、いろいろな意味でも分業として機能しているのです。もちろん、個別の図書館がどんな資料でも持っているというわけではありません。ゲッティンゲンの図書館は学習者や研究者に専門の文献をクラウスタールニツェラーフェルトから入手し、ドレスデンにある博士論文や、ドイツではキールの経済学中央図書館だけが定期購読している新聞の記事を探し出します。国立図書館や州立図書館にはそれぞれ特殊資料の収集の使命があります。フランクフルトやライプツィヒの国立図書館は、ドイツで出版されたものや商業ルートに乗ったドイツ語のものなら何でも集めます。このグローバル化した世界においては、ロンドンにある英国図書館もワシントン DC にある米国会図書館も、自分の大学図書館より遠いというわけではないのです。研究者はオンラインカタログを検索します。図書館は国際相互利用を通じて探し物を入手します。そしてほんの少し待つと、雑誌論文はもう彼の机の上か画面上に届いているのです。

図書館は体系として、チームとして機能します。まるで人間のようです。コミュニケーションを、交換を、関係を必要とし、互いに補充しあうのです。そうしてさらに図書館は発展していくのです。

19. 図書館は執筆を助けます

ジャーナリストで作家で、古代史家のラルフ＝ペーター・メルティンは、ローマ・ゲルマン史にどっぷりと浸っています。著書『トイトブルク森の戦い』のためです。メルティンはフランクフルトの自宅で、そして週ごとにライン沿いの修道院で執筆しています。でも、書く前には、調査が必要です。読むことが必要です。それも図書館で。なぜでしょう？「まずなんといっても本があるからです。リウィウスなら、古代史家なら家に持っているでしょう。でも12巻本の古典学辞典『新パウリ』となると個人で買う人はいません。ましてや37巻本の『ゲルマン古代芸術百科事典』については言うまでもないでしょう。それが必要なときに私はパルメンガルテンのローマ・ゲルマン委員会の図書館に行きます。」専門の大百科辞典や原典版、専門の会議の会議録、公文書、文通、学術的な議論の行われるあらゆる専門紙。ローマとゲルマン人という、メルティンが現在興味を持っている分野ひとつでも、世界中の何百もの資料が必要なのです。全部買うなんて、無理です。「蔵書はとてもよく分類されています。そもそも図書館での仕事はとても快適になりました。大学図書館は、借り出し期限が来るとメールで知らせてくれます。たいいていの場合オンラインで期限を延長できます。」

20. 図書館は知を救います

本は古くなります。時間という刃が本を切り裂くのです。酸化や細菌によって紙は蝕まれ、黄ばんだり、穴があいたりします。いずれにしても碎木パルプの紙でできているかぎり、私たちの文化の記憶はボロボロに崩れていくのです。専門家の見積もりによれば、ドイツの図書館には6千万冊の本が崩壊の危機にあり、脱酸処理を必要としています。古い手書き原稿もみな危機に瀕しています。たとえばハンブルクのカール・フォン・オシエツキー国立・大学図書館では、レッシングやクロップシュトック、ハイネ、そしてヘンデルの手稿を修復して、今すぐにも後世のために救い出さなければなりません。どんなデータも、オリジナル原稿の魅力を埋め合わせることはできませんから。

それにもかかわらず、図書館はその全蔵書を次から次へとデジタル化しています、たとえそれが

非常に危険な状態でなかったとしても、またデジタル化が非常に高価であるにもかかわらず。本は読者を必要とするし、デジタル化によって本は読者を容易に開発できるからです。またデジタル化をすれば資料やデータを利用者は自分のパソコンでフルテキストで見ることができるのです。いまグーグルは巨大なデジタル図書館を作っています。ドイツではこの国際的な検索エンジンはバイエルン国立図書館と協力をしています。EU委員会は、同じくデジタル化プロジェクトとしてヨーロッパ図書館 European Library を創設しました。両者はいつか大いに利用されることになるでしょう。そして両者とも、大型図書館の蔵書なしには想像もできなかったことなのです。そしてもしすべてがデジタル化されたら？ そのあとには収集した情報を保存していく任務があります。というのも電子媒体にも寿命があるからです。フロッピーディスクに入れた古い試験課題をもう一度印刷しようとしたことのある人ならご存知でしょう。図書館は電子情報を100年先まで確実に利用可能な状態で保存することに真剣に取り組んでいます。

21. みなさんごめんなさい、情報は学ばなければならないのです

おばあさんは教養のある女性でした。彼女は大ブロックハウスを居間に置いていて、なんでもそれで調べていました。大学にだって行ったことがあるし、国立図書館の本でできた目録カードケースで文献を探したりもしました。でももし彼女が今帰ってきたら、びっくり仰天するでしょう。本より多い数のスクリーン。見通すことのできない情報の世界に、おばあさんの孫娘はどうにかして慣れなければならないのです。適切な時期に、つまりすでに小学生のときに孫娘が市立図書館で情報について学ぶのは素晴らしいことです。それからもう一度大学図書館で。彼女は単線的な調査方法を学びます、正しい情報源を認識することを学びます、そしてデータベースを使うことを、さらに情報を入手することを学びます。これはすでに一つの専門分野です。つまり、情報リテラシーなのです。そこでみな、おばあさんが既に知っていたことも、お父さんが予想もしなかったことも学びます。私たちの社会、つまりすでに「情報化社会」と呼ばれている社会においては、これが必要なのです。誰がそれを教えるかって？ もちろん、図書館員です。

図書館が必要とするもの

・十分な本の提供。最低1万冊、そして図書館のある地域の住民一人につき2冊というのが公共図書館の国際基準ですが、ドイツではまったく達成できていません。

・関心を集める本の提供。そのためには公共図書館は毎年蔵書の10パーセントを入れ替えてい

かなければなりません。大学図書館は顧客のために最新のオンラインの、電子のまた冊子体の専門文献を提供しなければなりません。利用者が利用してくれるかどうかは、どちらの場合も、品揃えが最新の状態にあるかどうかにかかっているのです。蔵書が全体として今日性を失えば、これまでの投資も価値を失ってしまうのです。

- ・ユーザーフレンドリーな開館時間。学生は夜や週末も勉強したいし、子供は読みたいのです。仕事をしている人も、本棚を探し回りたいし、家族も一緒に自由な時間を過ごしたいのです。

- ・訓練を積んだ専門家。利用者に文献や情報への道を案内するために、彼らはさらに学び、資格を得ることでレベルを維持しなければなりません。

- ・近くにあること。図書館は利用者のいるところになくてもなりません。交通の要所に、学校に、大学に。図書館は、利用したいと思っているどんな人にも手の届くものでなければなりません。村にも、町にも。

- ・スタンダード。自分の街や大学で利用できる図書館のレベルがたまたまのことだった、ということにならないために。そうあって初めて、図書館利用者は信頼できる品揃えを期待することができるのです。そうあって初めて、地域の住民も州の住民も、公共図書館に対して、あるいは学術図書館に対して、彼らの施設が利用者に何を提供するのかを正しく評価できるのです。設備も効果も、測定可能だし、比較可能なのです。スタンダードはそのためにあるのです。

- ・パートナー。図書館は、たとえば教育のネットワークにおいて重要な結び目となります。幼稚園、学校、市民大学、大学そして図書館は一つの組織のように、構造をもって協働しなければなりません。図書の推薦にあたって、情報リテラシーの習得の際に、持続的な教育のために。

- ・図書館に関心のある政治家。図書館は政治の世界に、文化と教養はこの国においてネットワークを築いていて、まさにそのネットワークがその政治的目的の実現のために必要なのだということを理解してくれる友人、支持者が必要です。図書館が選挙基盤において票獲得の要因となることを理解してくれる人が。

- ・市民のためになる、学問のためになる著作権。全市民が学問に、教育にそして情報に関与することのできるようなもの。

・図書館の状況の協調と発展を地域において支えてくれる州の、そして私立の専門機関。それによってすべての図書館が専門的なスタンダードを提供できるように。

・図書館開発機構。協調と相乗作用を促進し、イノベティブな図書館業務を支え、他の教養施設や文化施設、ならびに経済と連携をとります。

・確実性。つまり、図書館法。次の人員削減のときにも図書館がそれに翻弄されないために。図書館が地方自治体の「任意の業務」であるかぎり、その存在は公的資金をめぐる争いの中にあって危険にさらされているのです。

¹ 『アルテミス・ファウル』シリーズで有名なアイルランドの児童作家オーエン・コルフアーの作品『じゃがいもマーフィーの伝説』（ドイツ語題：„Tim und das Geheimnis von Knolle Murphy“）に登場するキャラクター。

² 1960年代から洗剤のCMに使われた「汚し屋」のキャラクター。

³ 心理学者で作家のフリード・マンのこと。トーマス・マン晩年の作品『ファウスト博士』の登場人物ネボムクのモデルとなった。

⁴ この点を含め、日本の文化に関する部分に関し BID に助言を行ったが、1月に出版される版では修正があるかもしれないとの答えをいただいている。